

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202990		
法人名	有限会社 白寿		
事業所名	グループホーム倉敷北		
所在地	岡山県倉敷市宮前42-1		
自己評価作成日	2012年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202990&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、倉敷駅から徒歩約10分の市街地にある。ホーム周辺の街並みは、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境にある。隣接する医療法人昭和会倉敷北病院と密接な医療連携、各ユニットへ看護師を配置、日常の健康管理など、介護と医療の連携を常にとっている。これらが利用者・家族からの安心感につながっている。今までの暮らしを可能なかぎり継続できるように、掃除・洗濯・食事などの家事を、利用者とスタッフが共同でしている。 法人理念「その人らしい尊厳のある生活を支援する」に基づき、利用者・家族が「ここで暮らせてよかったあ…」と、満足感を感じるグループホームを目指している。事業所全体で、日々研鑽を積んでいる。

倉敷の市街地にあるが、事業所内は落ち着いた雰囲気の家具や装飾でまとめられており、利用者がゆったりと自分らしいペースで生活している。近隣にはスーパーや衣料品店があり、散歩がてら買い物に行きやすい環境にある。また、各ユニットへの看護師の配置と医療機関が隣接していることで、日頃の健康管理並びに緊急時の対応についても、医療と介護の連携により安心して任せられる体制が整っている。入居時に緊急連絡先の確認はもとより、連絡の頻度などを細かく確認することにより、家族と事業所の間で信頼関係づくりに一役かっている。職員は理念である「その人らしい尊厳ある生活を支援する」を共通の意識として持ち、各種の研修を通じて、また日頃の業務の中からお互いに研鑽し合い、日々サービス向上にむけて取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい尊厳のある暮らしを支援する」という法人理念を事業所スタッフ全員で共有・実践できるように、年度初めおよび随時研修などで“心の羅針盤”として、再確認している。	理念を年度初めや月1回のミーティングで確認し、職員全員が共通の意識をもって日々のケアに活かしている。また新人職員でも丁寧に指導を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、コミュニティでの活動に関わりをもっている。地区社協が昨年創設され、地域とのつながりを持ち続けられるような活動も行っている。	町内会に入ったり、コミュニティでの活動で関わりを持ったりすることで、地域の方々とのつながりがある。また地区社協の活動にも参加していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民講座への講師派遣や、実習生の積極的な受け入れなど、認知症介護の実践を人材育成にも活かしている。地域の小学生がキッズヘルパーとして介護体験をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災対策、地域との関わり、行政からの助言など、会議参加者からの「声」をグループホーム運営の手掛かりとし実践につなげている。	毎回、行政の担当者・地域の方・家族・他の事業所・職員等が15名ほど参加し、2ヶ月に1回開催されている。防災について、地域の方ならではの知恵を教えていただくこともあり、情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当各課との連絡・助言を適宜行い関係を密にしている。運営に関する相談・提案なども行い、協力関係を築いている。	日頃から行政と事業所との連絡が密に取れており、相談や提案などがしやすい協力関係にある。担当者と日常的に、グループホームの運営や基準について連絡・相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修の必須項目とし、身体拘束ハンドブックをもとに、理解と実践に努めている。スタッフ同士が常に身体拘束をしないケアを意識している。	年度初めに身体拘束の10項目を振り返ったり、研修を行ったり、事例を検討することで、職員間の意識を統一し、身体拘束をしないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を年に一度以上持ち、ワークシートを用いた具体的な事例検討も行っている。また、倫理観の涵養にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護(アドボカシー)について専門性がある社会福祉士が2名いる。社会福祉協議会担当職員や地域包括支援センターとの連携もとりながら、利用者・家族などからの相談・支援を行う体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の説明だけでなく、契約に関する利用者・家族などの疑問・要望などを懇切丁寧に聴き取り、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“心の耳をすませて” “利用者や家族の心に寄り添い” 利用者や家族の声を、即時ユニットスタッフに伝え、顧客満足度の観点から改善策を計画・実施するように心がけている。	緊急時に連絡する際の頻度や時間・連絡先等について、家族にアンケートを実施し結果をもとに書類の作成を行ったり、家族旅行など利用者や家族からの意見を取り入れたりしている。	家族の声を反映させるように取り組まれているので、今後も家族との連携をしっかりと取り、サービスの向上につながることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する現状把握、課題を積極的にブラッシュアップし、提案は試行し、改善を絶えず行い、質の高いサービスの提供に努めている。	職員からの社長・施設長・管理者への信頼は厚く、職員が意見を言いやすい環境作り、資格取得のサポート、研修体制など整っており、働きやすい職場環境であることにより、サービスの質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金や新設手当などで給与水準を向上。衛生要因にも着目し、「働きやすい」「働きがい」のある永続的な職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人ごとに年間研修計画を作成し、実践している。研修の成果は学会や事業者団体などでの事例発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者連絡協議会、日本認知症グループホーム協会などの研修に積極的に参加し、他事業所の職員との交流の機会にもしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを本人の生活暦や思いにスポットをあて、安心して暮らし続けられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前家族に、生活暦や本人の状況・問題などを専用用紙に記入してもらい、面談などで具体的な聴き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要と思われるサービスも紹介・提案・提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間・空間を共有しながら、生活を共にし、共感できる人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフの関わりを大切にしている。ホームへ訪問時には、家族からの要望などを聴き取るようにこころがけ、家族・スタッフが共に介護に携わって行く姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家や場所へ出かけたり、付き合いのあった友人などがホームへ訪問したり、馴染みの関係を継続できる支援をしている。	家族や職員が付き添って、以前住んでいた家へ外出したり、友人が面会に来たり、面会に来た友人と出かけたりするなど、馴染みの関係が継続出来るように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がそれぞれ役割を持ち、利用者同士の人間関係が築けられるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ホームへ家族などからの相談に応じられるような体制をとっている。入院先への見舞いなど、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の「思い」の把握に努めている。モニタリング・アセスメントに役立てる日々の記録に努めている。	言葉に出さない思いを把握するために、表情や表現を見逃さないようにし、介護記録や申し送りノートに残すことにより職員同士で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから生活歴を把握し、介護サービスの利用状況があれば情報を提供してもらっている。その情報をスタッフで共有しながら、入居後もさらに関わりをもちながら探っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表や申し送り、送りノートなどを活用しながら利用者一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、スタッフの様々な視点から課題やケアについて意見交換し、介護計画に反映させている。	介護計画を職員・家族・利用者が関わりながら立てることにより、日々のケアに反映させやすく、記録の中からもアセスメントやモニタリングを行えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の内容や申し送りでの情報をミーティングなどで共有し、実践での課題解決にむけて活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットスタッフが、その場で柔軟に即応できるように、「考える習慣」づくりに努めている。“できない”ではなく、“できる”方策を考え、利用者・家族に満足のいく多角的な支援を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活暦を把握しながら、利用者を取り巻く地域資源の活用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医での受診、訪問歯科診療、医療相談など医療機関との連携を図っている。	家族の協力を得ながら、協力医療機関や入所前からのかかりつけ医への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への連絡・相談を密にしている。スタッフは医師・看護師などの指示のもと適切な健康管理に努めている。急変時などは、看護師や医師などにいつでも連絡がとれる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供がスムーズにできるように、個人記録や情報資料をファイルに一元化している。医師・看護師など医療従事者との日常的な情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に十分な説明を行い、グループホームでのケアについて利用者・家族の意向を尊重しながら、同意を得ている。	重度化した際の対応について説明書を作成し、入居時に説明を行い、利用者・家族の意向を尊重し、可能な限り思いに沿えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの見直しを行い、より初期対応が迅速・確実に行えるようにした。急変や事故からの教訓を、スタッフが実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間・夜間の想定で、防災訓練を実施している。近隣施設や町内会への協力体制もある。	年2回、職員へ予告なしに防火訓練を実施し、非常時に備えている。地域の方からの助言やハザードマップの確認により、他の災害にも備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に言葉をかける時には、尊厳を保持しつつ、TPOに応じた呼称・声量・抑揚などを配慮しながら行っている。	理念に「その人らしい尊厳ある暮らしを支援する」とある通り、日々のケアの中で職員一人ひとりが尊厳とは何かを考え、プライバシーや誇りを損ねない支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択の自由を尊重し、利用者自身が決められるようにスタッフが働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活スケジュールは利用者一人ひとりにあるが、本人の希望や心身の状況により随時臨機応変な支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、パーマやヘアカラーなどその人らしいみだしなみやおしゃれができるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べる楽しみを感じるように、食材の買い物を利用者とスタッフが一緒に行い、調理・盛り付けなども利用者が参加できる工夫をしている。	利用者と職員と一緒に買い物に行ったり、献立を考えたりすることで食べる楽しみを感じることが出来る。食事中に職員がさりげない手助けをすることで、介助が必要ではと思われる方もスムーズに食べる事が出来ていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士から献立の評価・指導を定期的に受けながら、利用者の嗜好にあう食事作りに努めている。午前・午後のティータイムなど適宜水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいなど口腔内が清潔に保たれるようにしている。入れ歯洗浄剤を使用したり、定期的な訪問歯科診療も受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように、個々に応じた誘導・介助を心がけている。尊厳の保持という視点も大切に、紙おむつではなく自然な排泄ができるように支援している。	排泄パターンを把握し、その方に応じた誘導を行っている。また業者が行う研修で、パットの当て方をあらためて勉強し日々のケアに取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を工夫したり、水分補給に配慮している。入浴時にマッサージを行ったり、歩行などの運動を促したりして、薬にできるだけ依存しないよう便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定はあるが、利用者の希望や心身の状況に応じて、曜日や時間を変更し、個々の入浴が満足できるように支援している。	脱衣場にカーテンを設置しプライバシーを確保したり、椅子を置くことで湯あがりに一息つける場を設けたりすることで、より寛ぐことができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで横になる、畳で寛ぐなど一人ひとりの生活に合った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬(作用・副作用など)についての研修や、医師・看護師との協働により、利用者の状況を観察しながら服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、食事作り、洗濯物をたたむ、新聞を届けるなどそれぞれの人に役割を創出し、趣味などの楽しみごとにも可能なかぎり取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人がもう一度行きたい、家族と一緒に出かけたい場所へ気軽に外出できるように日常生活の一部として支援している。初詣・花見・紅葉狩りなどの家族旅行も行っている。	普段から、買い物や散歩などの外出の機会が多い。季節に応じて、初詣・お花見・紅葉狩りなどを行い、利用者や家族の希望に沿えるように支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品や日用品などを、希望に応じて商品を選んだり、買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者が家族などへ出せるようにしている。 電話はいつでもかけたり、かかってきた電話を取り次いだりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品や写真などにより季節感・生活感を取り入れ、快適な空間になるようにしている。窓からの自然な採光、適度な空間の広さなど居心地のよく過ごせる工夫をしている。	明るく広いリビングには、ゆったりとしたソファがあり、誰もが寛げるスペースとなっている。外には、菜園や花壇が整備されており、気候の良い時期には足湯を楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何種類かのソファや椅子を置き、利用者の居場所に配慮した空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活を継続できるように、畳の間にしたり、使い慣れた家具などを使用するなどの環境づくりをしている。	利用者に合わせ、生活しやすいように畳を用いたり、使い慣れた家具や寝具を持ちこんだりと居心地のよいお部屋作りが出来るように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	イスやテーブルの配置、居室の環境整備など、利用者の自立支援につながるような工夫に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202990		
法人名	有限会社 白寿		
事業所名	グループホーム倉敷北		
所在地	岡山県倉敷市宮前42-1		
自己評価作成日	2012年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202990&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは、倉敷駅から徒歩約10分の市街地にある。ホーム周辺の街並みは、利用者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境にある。隣接する医療法人昭和会倉敷北病院と密接な医療連携、各ユニットへ看護師を配置、日常の健康管理など、介護と医療の連携を常にとっている。これらが利用者・家族からの安心感につながっている。今までの暮らしを可能なかぎり継続できるように、掃除・洗濯・食事などの家事を、利用者とスタッフが共同でしている。

法人理念「その人らしい尊厳のある生活を支援する」に基づき、利用者・家族が「ここで暮ら

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい尊厳のある暮らしを支援する」という法人理念を事業所スタッフ全員で共有・実践できるように、年度初めおよび随時研修などで“心の羅針盤”として、再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、コミュニティでの活動に関わりをもっている。地区社協が昨年創設され、地域とのつながりを持ち続けられるような活動も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民講座への講師派遣や、実習生の積極的な受け入れなど、認知症介護の実践を人材育成にも活かしている。地域の小学生がキッズヘルパーとして介護体験をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災対策、地域との関わり、行政からの助言など、会議参加者からの「声」をグループホーム運営の手掛かりとし実践につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当各課との連絡・助言を適宜行い関係を密にしている。運営に関する相談・提案なども行い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修の必須項目とし、身体拘束ハンドブックをもとに、理解と実践に努めている。スタッフ同士が常に身体拘束をしないケアを意識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を年に一度以上持ち、ワークシートを用いた具体的な事例検討も行っている。また、倫理観の涵養にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護(アドボカシー)について専門性がある社会福祉士が2名いる。社会福祉協議会担当職員や地域包括支援センターとの連携もとりながら、利用者・家族などからの相談・支援を行う体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の説明だけでなく、契約に関する利用者・家族などの疑問・要望などを懇切丁寧に聴き取り、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	“心の耳をすませて” “利用者や家族の心に寄り添い” 利用者や家族の声を、即時ユニットスタッフに伝え、顧客満足度の観点から改善策を計画・実施するように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する現状把握、課題を積極的にブラッシュアップし、提案は試行し、改善を絶えず行い、質の高いサービスの提供に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善交付金や新設手当などで給与水準を向上。衛生要因にも着目し、「働きやすい」「働きがい」のある永続的な職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人ごとに年間研修計画を作成し、実践している。研修の成果は学会や事業者団体などでの事例発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者連絡協議会、日本認知症グループホーム協会などの研修に積極的に参加し、他事業所の職員との交流の機会にもしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを本人の生活暦や思いにスポットをあて、安心して暮らし続けられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前家族に、生活暦や本人の状況・問題などを専用用紙に記入してもらい、面談などで具体的な聴き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要と思われるサービスも紹介・提案・提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間・空間を共有しながら、生活を共にし、共感できる人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフの関わりを大切にしている。ホームへ訪問時には、家族からの要望などを聴き取るようにこころがけ、家族・スタッフが共に介護に携わって行く姿勢をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた家や場所へ出かけたり、付き合いのあった友人などがホームへ訪問したり、馴染みの関係を継続できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がそれぞれ役割を持ち、利用者同士の人間関係が築けられるような支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ホームへ家族などからの相談に応じられるような体制をとっている。入院先への見舞いなど、関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の「思い」の把握に努めている。モニタリング・アセスメントに役立てる日々の記録に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから生活歴を把握し、介護サービスの利用状況があれば情報を提供してもらっている。その情報をスタッフで共有しながら、入居後もさらに関わりをもちながら探っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表や申し送り、送りノートなどを活用しながら利用者一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、スタッフの様々な視点から課題やケアについて意見交換し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の内容や申し送りでの情報をミーティングなどで共有し、実践での課題解決にむけて活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットスタッフが、その場で柔軟に即応できるように、「考える習慣」づくりに努めている。“できない”ではなく、“できる”方策を考え、利用者・家族に満足のいく多角的な支援を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活暦を把握しながら、利用者を取り巻く地域資源の活用も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やかかりつけ医での受診、訪問歯科診療、医療相談など医療機関との連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への連絡・相談を密にしている。スタッフは医師・看護師などの指示のもと適切な健康管理に努めている。急変時などは、看護師や医師などにいつでも連絡がとれる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供がスムーズにできるように、個人記録や情報資料をファイルに一元化している。医師・看護師など医療従事者との日常的な情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に十分な説明を行い、グループホームでのケアについて利用者・家族の意向を尊重しながら、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの見直しを行い、より初期対応が迅速・確実に行えるようにした。急変や事故からの教訓を、スタッフが実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼間・夜間の想定で、防災訓練を実施している。近隣施設や町内会への協力体制もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に言葉をかける時には、尊厳を保持しつつ、TPOに応じた呼称・声量・抑揚などを配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や選択の自由を尊重し、利用者自身が決められるようにスタッフが働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活スケジュールは利用者一人ひとりにあるが、本人の希望や心身の状況により随時臨機応変な支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、パーマやヘアカラーなどその人らしいみだしなみやおしゃれができるような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べる楽しみを感じるように、食材の買い物を利用者とスタッフが一緒に行い、調理・盛り付けなども利用者が参加できる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士から献立の評価・指導を定期的に受けながら、利用者の嗜好にあう食事作りに努めている。午前・午後のティータイムなど適宜水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいなど口腔内が清潔に保たれるようにしている。入れ歯洗浄剤を使用したり、定期的な訪問歯科診療も受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように、個々に応じた誘導・介助を心がけている。尊厳の保持という視点も大切にし、紙おむつではなく自然な排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材を工夫したり、水分補給に配慮している。入浴時にマッサージを行ったり、歩行などの運動を促したりして、薬にできるだけ依存しないよう便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定はあるが、利用者の希望や心身の状況に応じて、曜日や時間を変更し、個々の入浴が満足できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで横になる、畳で寛ぐなど一人ひとりの生活に合った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬(作用・副作用など)についての研修や、医師・看護師との協働により、利用者の状況を観察しながら服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、食事作り、洗濯物をたたむ、新聞を届けるなどそれぞれの人に役割を創出し、趣味などの楽しみごとにも可能なかぎり取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人がもう一度行きたい、家族と一緒に出かけたい場所へ気軽に外出できるように日常生活の一部として支援している。初詣・花見・紅葉狩りなどの家族旅行も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品や日用品などを、希望に応じて商品を選んだり、買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを利用者が家族などへ出せるようにしている。 電話はいつでもかけたり、かかってきた電話を取り次いだりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品や写真などにより季節感・生活感を取り入れ、快適な空間になるようにしている。窓からの自然な採光、適度な空間の広さなど居心地のよく過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何種類かのソファや椅子を置き、利用者の居場所に配慮した空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活を継続できるように、畳の間にしたり、使い慣れた家具などを使用するなどの環境づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	イスやテーブルの配置、居室の環境整備など、利用者の自立支援につながるような工夫に努めている。		